

令和3年度科学研究費補助金配分一覧（代表分）

基盤研究（C）

（単位：千円）

課題番号	研究課題	研究代表者		年度		
		職	氏名	令和3	4	5
20K10692	臨床看護師の倫理的行動を明確にする看護倫理ルーブリックの開発	教授	吾妻 知美	500	700	
20K10795	在宅精神障害者のエンド・オブライフケアの実践的モデル構築	教授	郷良 淳子	1,258	650	1,170
18K10578	気になる子供と養育者を支える農村型子育て世代包括ケアシステムモデルの構築	教授	志澤 美保	1,000		
19K10932	がんエンドオブライフを支える在宅ホスピスナーシングケア尺度の開発と課題の明確化	教授	吉岡 さおり	400		
21K11148	在日コリアン1、2世高齢者と日本人高齢者の抑うつ関連要因の検討	准教授	伊藤 尚子	1,040	1,690	910
21K10576	行政保健師との共創を可能とする看看連携を構築する病院看護管理者教育プログラム開発	准教授	滝下 幸栄	600	500	800
21K10828	看護師と子どもの目の疑義体験から小児の医療安全を学ぶVR教材の開発と評価	准教授	原田 清美	900	900	1,400
18K10284	関節リウマチ患者の関節破壊評価による関節保護対策と看護プログラムの開発	講師	佐伯 良子	1,100		
19K10952	がん免疫療法を受ける患者のための口腔ケアプログラムの開発	講師	越智 幾世	1,100		
21K10803	ICUせん妄を発症した患者のPICS予防のためのケアプログラムの開発	学内講師	山田 親代	600	600	1,000

若手研究

課題番号	研究課題	研究代表者		年度		
		職	氏名	令和3	4	5
20K19280	呼吸器悪液質を予防するマルチモーダル介入プログラム開発のための基礎的研究	教授	毛利 貴子	800		
18K17566	成人移行期DMDの自立支援 混合研究法デザインによる調査研究	学内講師	山口 未久	490		

令和3年度科学研究費補助金分担配分およびその他の助成金

1 文部科学省、各省庁

(1) 文部科学省基盤研究

所属	職	氏名	代表 又は 分担	研究代表者				研究課題名	金額 (千円)
				所属機関名	部局	職	氏名		
看護倫理・管理学	教授	吾妻 知美	分担	天理医療大学	医療学部	講師	齋藤 洋子	看護職のセカンドキャリアステージへの移行を支援するキャリア発達教育の有効性	100
精神看護学	教授	郷良 淳子	分担	大手前大学	国際看護学部	教授	山本 純子	訪問看護を利用する在留外国人におけるACPプロセスの実践的モデル構築	150
地域看護学	教授	志澤 美保	分担	明治国際医療大学	看護学部	教授	桂 敏樹	ウェルネス共創型街づくりと健康なライフコースを紡ぐ支援システムの融合拠点の創生	50
地域看護学	教授	志澤 美保	分担	京都大学	こころの未来研究センター	研究員	大塚 結喜	加齢による社会性低下機構の解明—感情と抑制機能を中心とする検討	20
地域看護学	教授	志澤 美保	分担	大阪成蹊大学	準備室	教授	星野 明子	アラ還世代が希求するヘルスケアコンテンツの協働探索と継続可能な場のイノベーション	20
地域看護学	教授	志澤 美保	分担	京都大学	医学系研究科	講師	細川 陸也	社会情動的スキルの発達を促すプログラムの開発と大規模介入研究による効果検証	100
母性看護学	教授	松岡 知子	分担	京都府立医科大学	医学部	准教授	滝下幸栄	行政保健師との共創を可能とする看看連携を構築する病院看護管理者教育プログラム開発	100
地域看護学	准教授	伊藤 尚子	分担	畿央大学	健康科学部	准教授	文 鐘聲	在日コリアンハンセン病回復者・超高齢者コホートによる被差別経験と健康影響の解明	150
地域看護学	准教授	伊藤 尚子	分担	公立小松大学	保健医療学部	教授	中島 素子	机うつぶせ寝枕使用の午睡を取り入れた高校生版睡眠教育プログラムの開発と検証	30
小児看護学	准教授	原田 清美	分担	宝塚医療大学	和歌山保健医療学部	教授	關戸啓子	終末期にある療養者のための食事ガイドラインの開発	10
成人看護学	准教授	室田 昌子	分担	京都府立医科大学	医学部	教授	岩脇 陽子	在宅ケアを推進する病棟看護師に必要な退院調整の実践プログラムの開発と有用性の検証	100
成人看護学	准教授	室田 昌子	分担	京都府立医科大学	医学部	学内講師	山田 親代	ICUせん妄を発症した患者のPICS予防のためのケアプログラムの開発	100
基礎看護学	講師	山本 容子	分担	京都府立医科大学	医学部	教授	岩脇 陽子	在宅ケアを推進する病棟看護師に必要な退院調整の実践プログラムの開発と有用性の検証	100
小児看護学	学内講師	山口 未久	分担	兵庫県立大学	看護学部	准教授	本田 順子	慢性疾患をもつ子どもを含む家族の役割移行を支える多職種協働プログラムの開発	50
小児看護学	学内講師	山口 未久	分担	滋賀医科大学	医学部	准教授	荻田 美穂子	ALS進行予防のための在宅呼吸管理プログラムの開発；潜在的低酸素状態への着眼	49.4

(2) その他 (AMED)

所属	職	氏名	代表 又は 分担	研究代表者				研究課題名	金額 (千円)
				所属機関名	部局	職	氏名		
看護学科	教授	吾妻 知美	分担	京都府立医科大学	医学研究科	教授	瀬戸山 晃一	研究倫理教育の効果と評価尺度についての学際的考察と実証プログラムの開発	0

助成金の名称 (安田記念医学財団がん看護研究助成)

所属	職	氏名	代表 又は 分担	研究代表者				研究課題名	金額 (千円)
				所属機関名	部局	職	氏名		
成人看護学	准教授	室田 昌子	代表	京都府立医科大学	医学部	准教授	室田昌子	外来化学療法を受けている高齢者単独世帯の男性がん患者が抱える療養生活の課題の明確化と必要な看護介入の検討	450
成人看護学	講師	越智 幾世	分担	京都府立医科大学	医学部	准教授	室田昌子	外来化学療法を受けている高齢者単独世帯の男性がん患者が抱える療養生活の課題の明確化と必要な看護介入の検討	0
基礎看護学	講師	山本 容子	分担	京都府立医科大学	医学部	准教授	室田昌子	外来化学療法を受けている高齢者単独世帯の男性がん患者が抱える療養生活の課題の明確化と必要な看護介入の検討	0
老年看護学	講師	川上 祐子	分担	京都府立医科大学	医学部	准教授	室田昌子	外来化学療法を受けている高齢者単独世帯の男性がん患者が抱える療養生活の課題の明確化と必要な介護介入の検討	0

京都府立医科大学看護学科紀要投稿規程

1. 原稿の種類

投稿原稿の種類は、論壇、総説、原著、研究報告、資料であり、それぞれの内容は以下のとおりである（図表を含む）。

【論壇】(Sounding Board)

保健看護領域や担当する専門領域に関する問題や話題や動向について、今後の方向性を指し示すような論述や提言（5頁以内）

【総説】(Review Article)

ある主題について研究論文、調査論文などを総括し、解説したもの（10頁以内）

【原著】(Original Article)

独創的な研究により、新しい知見を示した研究論文（10頁以内）

【研究報告】(Research Report)

研究結果の意義が明らかで、報告する価値が高いもの（10頁以内）

【資料】(Information)

保健看護領域や担当する専門領域に関連した活動・実践・調査データの報告等で、研究専門委員会において資料的価値があると認めたもの（7頁以内）

2. 投稿資格

本誌の投稿者は原則として本学の専任教員に限る。ただし、卒業生、大学院生、共同研究者等編集委員会が執筆を認めた者はこの限りではない。

3. 投稿論文の制約

論文は独創的な研究で、他誌に未発表のものに限る。また、倫理上問題となるものは採用しない。

4. 投稿論文の著作権（財産権）

本紀要に投稿された論文、抄録の著作権は、京都府立医科大学医学部看護学科に帰属する。

5. 執筆要領

1) 投稿原稿は和文もしくは英文のワープロ横書きで、A4版を用い、1頁は36字×30行（1080字）とする。原稿の長さは、原則として、希望する原稿の種類の数以内とする。なお、本誌1頁（原稿2枚分）は、A4版24字×45行の2段組となる。

2) 原稿の記述順序は、I) 表題、II) 著者名、III) 所属名、IV) 原稿の枚数及び図、表の数、V) 別刷30部を超えて必要とする数、VI) 希望する原稿の種類、VII) 要約、VIII) キーワード（3～5語）、IX) 本文、X) 文献とする。（I～VIは表紙として1枚にまとめる。）

また、和文の原稿にあっては、表題、著者名、所属名の英文訳を付すること。

3) 原則として、漢字は当用漢字、送りがなは新かなづかいを用いるものとする。略字は、国際的慣例に従い、単位又は単位記号は国際単位系による。欧文文字、算用数字は2字1コマとする。

4) 図、表は、1枚の用紙に1つずつ記載し、まとめて原稿の末尾に添付する。本文中には図、表が挿入されるべき位置を明記する。なお、図、表の大きさは指定がない限り「原寸大」とする。

5) 文献は本文の引用箇所の右肩に番号をつけ、本文の最後にその番号順に次の方法で記載する。

著者名は3名までを表記し、それ以上は“他”又は“et al.”を用いる。

記述順序は、雑誌の場合、著者名（西暦発行年）：論文表題、雑誌名、巻：最初頁－最終頁、とする。雑誌名の省略はIndex Medicus及び日本医学雑誌略年表（日本医学図書館協会編）によるものとする。

単行本の場合は、著者名（西暦発行年）：書名（第何版）、引用頁、発行地：発行所とする。

例：雑誌の場合

金成由美子, 安村誠司 (2002) : 高齢者における転倒予防介入プログラムの有効性に関する文献的考察, 日本公衆衛生雑誌, 49 : 287-304.

Polit, D. F., Gillespie, B. M. (2009) : The use of the intention-to-treat principle in nursing clinical trials, Nursing Research, 58 (6) : 391-399.

例：単行本の場合

宗像恒次 (1996) : 最新行動科学からみた健康と病気, 10-20, 東京 : メヂカルフレンド社.

6. 投稿原稿の提出

投稿原稿は、原稿1部と著者名及び所属名を削除した原稿のコピー2部を編集委員会に提出する。最終原稿提出時に、USBメモリ等の電子媒体（ファイル名「筆頭者（本文）」「筆頭者（図、表）」で保存したもの）を提出する。

7. 原稿の受け付けおよび採否

投稿原稿の採否は、査読を経て、編集委員会で決定し、投稿者に通知する。

また、編集委員会の決定により、投稿者に原稿の修正及び原稿の種類の変更を求めることがある。

8. 著者校正

原稿の校正は投稿者の責任において行い、原則として再校までとする。校正はすみやかにを行い内容及び組版面積に影響を与える改変は許されない。

9. 掲載料等

論文の掲載料及び別刷30部までは無料とする。ただし、別刷の増刷は著者の負担とする。

10. その他

この規程に定めるもののほか、紀要の編集に関して必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年5月8日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月8日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年10月24日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年5月12日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年5月12日から施行する。

編 集 後 記

2019年末から3年にわたる新型コロナウイルス感染症の流行によって生活は大きく変わりました。その生活も感染者の増加とウイルスの病原性の変化に伴い、ウイズコロナの生活に変わってきています。約100年前のスペイン風邪のパンデミックも約3年間続いた後、収束したようですので、コロナ前のような状況になるかどうかはともかく、落ち着く方向に向かっているように思います。

さて、本年度の京都府立医科大学看護学科紀要第32巻から、冊子体での発行を中止し、PDFのみでの発刊といたしました。これまでと変わらぬ体裁で編集しておりますので、引き続きご覧いただけますと幸いです。

第32巻では、総説1編、原著1編、研究報告5編、資料1編の計8編の論文の投稿をいただき、査読、修正の上、全て掲載することができました。査読にご協力いただきました学内外の先生、編集や校正など様々な作業にご協力いただきました委員、教育支援課の担当者ほか、関わっていただきました全ての方に感謝いたしますとともに引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。

研究専門委員長 森本昌史

編集委員長 吾妻 知美

編 集 委 員 森本 昌史 楠木 泉 毛利 貴子 吉岡さおり
滝下 幸栄 原田 清美 吉岡友香子 山口 未久

京都府立医科大学看護学科紀要 第32巻

令和4年12月23日 発行

発 行 京都府立医科大学医学部看護学科
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上の梶井町 465
TEL (075) 251-5166

印 刷 株式会社 田中プリント
〒600-8047 京都市下京区松原通麴屋町東入石不動之町 677-2
TEL (075) 343-0006
